

朝のこない夜はない

年の初めに

菩薩道を誓願しましょう

副山首 鈴木正修

『法音』読者の皆様から新春のご挨拶を申し上げます。

年の初めというのは何とも言えず心が改まるものです。誰しも

「今年はこの源である」と言っています。今年こそは」という思いを持つことができるでしょう。

幕末の長州が生んだ思想家、吉田松陰は「志を立てることがすべてのことの源である」と言っています。

その年だけでなく、一生を通じて抱く志というものがあると、人

生せいが違ちがったものになつてくると思おもいますが、そのバックボーンとなる考かんがえ方かたがもつと大だい事じなのではないかと思おもいます。

「武士道ぶしどうといふは死しぬ事ことと見み付つけたり」で有名ゆうめいな『葉隠はがくれ』は元佐賀藩もとさ がはんの武士ぶし、山本常朝やまもと じょうちょうの談話だんわをまとめたものですが、その序文じよぶんに当あたる「夜陰やいんの閑談かんだん」の中なかで常朝じょうちょうは次つぎのように言いっています。

「葉罐道心やかんどうしんにて、さめ易やすき事ことあり。

それは、さめぬ仕様しやうあり。我等われらが一流りゅうの誓願せいがん、

一、武士道ぶしどうに於おいておくれ取り申もうすまじき事こと。

一、主君しゅくんの御用ごように立たつべき事こと。

一、親おやに孝行こうこう仕まるべき事こと。

一、大慈悲だいじひを起おこし人の為ためになるべき事こと。

この四誓願せいがんを、毎朝まいあさ仏神ぶつしんに念ねんじ候さうらへば、二人力にんりきになりて、後あとへはしざらぬものなり。尺取虫じやくしゆむしの様ように、少すこしづつ先さきへにじり申もうすものに候さうら。仏神ぶつしんも、先まづ誓願せいがんを起おこし給たまふなり」

(人の心はやかんに入った湯のように、熱しやすく冷めやすいものだが、冷めないようにする手立てはある。それは誓願を立てることだ。われわれの流儀の誓願は次のとおりだ。

一、武士道において決して後れをとらないこと。

一、主君のお役に立つこと。

一、親に孝行すること。

一、大きな慈悲心をもって人のためになること。

この四つの誓願を毎朝仏神に祈るなら、力は倍加して後に引き下がるよ
うなことはない。尺取虫のように、少しずつ前に進むことができる。仏神
も、まずは誓いを立てることから始められたのである)

この四つの誓願は常朝自身のものでした。

別のところで、常朝は言っています。

「緊急のことがあって、人に相談する余裕もないときは、四つの誓願に照らし合わせて判断すればよい。おのずからよい考えが浮かぶものである。それ

以上のことを考える必要はない」

まさにその通りだと思えます。

この常朝の誓願のバックボーンは「私心を離れる」ということです。『葉隠』全編を貫く思想でもあります。

「武士道」を「菩薩行」、「主君」を「国家、社会」に置き換えればそのまま、私たちの誓願としても良いと思えます。

また、毎朝、仏神に祈念することもとても大事なことです。諸仏善神の加護を祈り、毎日、心新たに、年の初めのような気持ちで誓願をする。すばらしいことだと思えます。

皆様とともに法華経・三徳の実行をして、山首上人の御恩に報いてまいり所存でおります。どうぞよろしくお願い致します。

朝のこない夜はない（217）